

# ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局：大代地区公民館 ☎364-8442

## 大代南区のとりくみ

南区長 橋本 浩

南区は会員相互の親睦と交流を深め、青少年の健全育成と高齢者の福祉向上に努め、より快適な生活環境づくりを目指し、さらに防災意識の高揚と体制整備に努め、「住み良いふるさとづくり」を推進しております。

また、南区は大代五区中最も面積が広く、人口千六百九十七名、世帯数六百五戸です。従って運営面では行事の周知徹底が容易ではありませんが、会長（区長）を中心に六部制の組織で活動しております。

### 組織と活動

会長、副会長二名、会計一名、監事三名、部長六名、運動委員十名、班長四十一名（六部の部員兼務）

一 総務部（社会教育振興員兼務）

総会、役員会の進行、会報発行

二 環境部（地域環境推進員兼務）

環境美化とごみ集積所指導

三 体育部（スポーツ振興員兼務）

スポーツの振興と体力づくり指導

四 保健部（保健衛生推進員兼務）

健康づくりと保健業務の推進

五 福祉文化部

高齢者対策、青少年健全育成促進

六 防災対策部（副会長兼務）

防災関係機関との連絡調整、防災意識づくり

次に南区の特徴的な行事を紹介

一 新年早々（一月初旬）南区住民全

あいさつは心のふれあい 出会った人と あいさつしましよ

戸を対象に新春日の出を見る会を行います。早朝五時、町内の指定場所に集合し点呼確認後七ヶ浜町松ヶ浜岸壁まで約千五百メートルを徒歩で、岸壁で日の出を待つてご来光を拝み新年の誓いをします。次に全員で記念写真をとります。甘酒で乾杯を行い帰りには菓子パンをいただいで現地解散となります。寒さが引き締め厳しさも感じますが、参加者は年々増えています。

日の出を見る会



二 町内での地域環境美化をはかるものとして大きな花壇が三ヶ所あります。花壇の維持管理は年間を通し苗の手入れ、植替、除草などがあります。これらを住民が協力してあたってくれますのでいつも綺麗な花を咲かせ見る人、

通りかかりの人達の心をなごませてくれます。昨年はこれらの業績が「住み良い郷土の街づくり」で認められ宮城県知事より感謝状を戴きました。

現在は一昨年より会員が苗を持ち寄って植えた様々な紫陽花が赤白青紫と色あざやかに咲いております。この花の合間にはコスモスが植えてあり、続いて美しい花が咲き誇ってくれるでしょう。

三 町内行事は今年も夏祭り（盆踊り）敬老会、グラウンドゴルフ大会などが開催されますが、実施にあたっては南区の個性ある演出を皆さんで考えて、参加者が楽しく実効あるものにしたたいと検討中でありますので、次回はその報告させていただきます。

## 9・1 総合防災訓練

### 開催のお知らせ

大代五区区長会

来る九月一日、宮城県・多賀城市主催で総合防災訓練が陸上自衛隊多賀城駐屯地で行われます。

午前八時に消防団広報車等で避難広報訓練を実施、大代各区分で避難・誘導訓練を実施いたします。

各区でそれぞれ避難・誘導計画がありますので、一時避難場所、時間等を確認し参加してください。

午前九時に地震発生とともに各種訓練が開始されます。また、午前十一時には避難所開設訓練（自衛隊体育館）があり十二時三十分終了予定です。

## 小倉百人一首入門（その八）

大代西 藤田 遊子

「天の原 ふりさけ見れば

春日なる 三笠の山に

いでし月かも

阿部仲麿

「概訳」 大空をふり仰ぎ、遙かに眺めると春日にある三笠の山にかつてさしのぼっていた月だったのかなあ。

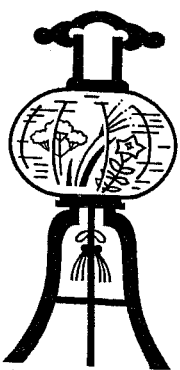
「主旨」 異国の国にて見た月によって感じた望郷の感慨。

「作者」 十六歳で唐に留学すること三十五年。暴風雨のため遭難し、帰国不能。唐で没。李白らとも親交あり。享年七十。

## ふれあい川柳

大代西 藤田 遊子

幕おりて扇を収む千景かな  
霞が関シャホチヨウピンチと揚雲雀  
命より大事なものあり光熱費  
柔よく剛を制すか百合子相  
方言が大臣の席奪いけり  
たった六票されど六票町治む  
老老介護宝のお舟も見飽きたり  
縦割りの谷間に爆発メタンガス  
ルックより語学で勝利ミスユニバ  
混ぜ肉は何でもうまし北海道



ご祝儀 お見舞いは 三千元を限度にし お返し物はしないようにお互い気を配りましよう

### 防災協と区民の幸せ

大代地区防災対策協議会

前会長 三浦 正義

去る四月二十八日、大代公民館において伊藤防災課長（菊池市長代理）のご臨席をいただいて総会を開催いたしました。議題は①経過報告、②会則の改正（婦人防火クラブ・消防団六分団が役員として参加）、③会計報告 ④役員の変更で、全議案が提案通り満場一致で承認されました。会長・会計は退任、事務長（故平山氏）は欠員。新会長・高橋傳廣さん（西区前区长）、事務長・本郷敏郎さん（中区副区长）、会計・斎藤尚子さん（南区役員）にご就任いただくことに決定、誠に心強く温かいご支援をお願いします。

平成九年一月、防災協発足から十年余、区民の方々の温かいご理解とご協力があり、区長さん方には格別なご支援をいただいております。体制のもとで区民の信頼と期待に応えるべく地道に活動をさせていただきました。改めて心からのお礼を申し上げます。

この組織はご承知のように平成九年新日本石油の火災事故を契機に地域住民の安全の確立と快適な生活環境の確保を目指し、実効を期するために企業と地域住民が共存する環境の育成を目標に、区民の方々の必死な想いと創立役員の実績な取り組みで誕生しました。ご退任なされた東区永沢前区长（故人）、南区渡辺前区长、中区東海林前

区长、北区福田前区长、東区遠藤前区长には親身のご支援をいただきましたことと、今日まで勤めることができたものと重ねてお礼申し上げます。

新日本石油（株）におかれても地域住民の姿勢に対応し、積極的に真剣な取り組みをいただきました。平成九年事故発生後地域交流を重視されその拠点として地域交流室を設け、ふれあいフェスティバル開催やグラウンドゴルフ、パターゴルフ、家庭婦人バレーボールの開催、パソコン教室の開設にも配慮され工場見学、説明会は地域住民の不安解消に大きく役立ってきたと思っております。平成十年には防災広報装置の竣工を見、事故発生時には自動車による広報の実施と緊急の連動体制も確立されました。さらに平成十五年から広報誌『うみねこ』を発行（年六回）し、会社の事業計画、内容等いろいろの情報を提供されています。さらに防災道路は長く懸案でしたが、現市長が県議時代、腐心のおかげで実現、有効に活用されています。今日までの足跡は、区民一人一人の誠意と強い連繋によるものと感謝しつつ、過言になるかもしれませんが、会社の真摯かつ渾身の姿勢と防災協の歩みを財産として引き継がせていただき、今後の無事故・無災害を祈念し、企業と区民が共存する豊かな地域・環境として大きく充実することを期待し、お礼のことばいたします。

### 重病を背負った私

大代中 鈴木 則子

愛とは生涯の生命力の強さ、死の道を山程かなしむことでしょうか、永遠に消えることなし。

病を克服して六ヶ月、三時間余りのバスにゆられて温泉に到着、一時不安のあまり心の動揺に犯された。いつまでも人を頼ってばかりいると、自立心を失う。思いきった行動に立ち向かう。どんな状態におちいっても私一人だけだ、軽俳浮薄である。今日という日は今しかない。強く生きる。希望は永遠に輝いている、病に負けるな。

背負った荷は重すぎた。今日という日を命にかけて明日をめざして楽しく生きるんだ。悠々自適が私には大切である。

元気な婆さんたちの笑顔が私に元気をあたえてくれた。「ありがとう」  
痛ましき 互に今日の えがほあり



### 梅雨どき

大代東 本郷 新治

うつつうしい入梅がやってきました。五月の終わり頃から六月、七月頃にかけて、毎年、私たちはこの梅雨に悩ま

されますが、この期間は、飲食物にはとくに気をつけなければなりません。

以前は、この梅雨どきになると、能率がぐんと落ちたものでしたが、最近はそのほどでもなくなりました。これは事務所はもちろん工場などの設備がよくなり、照明にも空気の流通などにも十分気を使っているからでありましょう。社員のこの期間での病気による早退や休業なども一年ごとになくなっていきます。かといって梅雨どきの影響が少しもないということはありません。たしかに設備も立派になり、照明なども十分で、社内におれば連日のくもり空もあまり気になりませんが、私どもの身体に感じてくるうつつうしさは、防ぎようもありません。気分的にどうしようもないくらさがあります。そのくらさに負けると、早退や欠勤ということにもなります。今年はそうした人が一人もないようにしたいものです。それには社内をできるだけ明るくすることです。これは照明の明るさだけではなくて、心の明るさです。それにはみんな楽しい会話をすることや昼にはコーラスをやる方法などもありますし、来訪されたお客様には心からの笑顔をもって迎えるとか、みんなで工夫をしてこの憂鬱な梅雨どきを張りきって過ごそうではありませんか。そして今年梅雨あけをむかえて病欠など一人も出ないように、今から十分気をつけてほしいと思います。

# 「防災協」設立から

## 十年を経て

防災協会長 高橋 傳廣

平成九年一月六日午後三時過ぎ、東北石油仙台製油所の脱硫装置から出火して、火災事故が発生したことは、大代の皆さんには等しく記憶されていると思います。この事故により大代地区住民は大騒ぎとなりましたが、早くも十年の年月が経ちました。

隣接する大代地区住民として、このような不安と恐怖を抱えているのでは、安全・安心の生活はできないと結論して、仙台製油所に安全対策の申し入れをしたのが「防災協」設立の決意でした。

事故発生から僅か一ヶ月足らずの短間に三浦正義さんを会長に、仙台港立地企業大代地区防災対策協議会を設立して、二月二日には関係機関・各団体と調整を図り、「仙台製油所安全対策説明会」を開催したのです。

説明会は、東北石油から社長以下十二名が出席、宮城県・仙台市・多賀城市・七ヶ浜町の防災関係者二十三名と大代地区住民・七ヶ浜町民・桜木地区住民、合わせて二百五十名が出席して、大代地区には稀に見る住民大会でした。

質疑に先立って、東北石油の細村社長が隣接住民に対し、迷惑と不安を与えた事を詫び、再発防止を誓って、頭を深々と下げて真摯に謝罪されたのがつい最近のように思い出されます。

説明会の次第は、防災協会長が挨拶のあと、多賀城市長・七ヶ浜町長・県議会議員の順に挨拶、続いて宮城県消防防災課の担当者と東北石油仙台製油所長から火災の原因と安全対策について詳しく説明されました。

このあと三浦会長を座長に選出して、代表質問二名、一般質問者二十五名が質問に立ち、一問一答の形式で行い、それぞれの担当者から詳しく回答されており、内容は割愛しますが、十時に開会して十三時近くまで約三時間の長丁場になりました。

仙台製油所は、この説明会を重く受け止められて、安全対策に取り組み一方、「開かれた製油所」を目指して、「地域交流室」を設置されたのです。

地域住民と交流を深めようとするこの事業は、事故に対する謙虚な反省と教訓を踏まえた安全操業の誓いのようにも思えました。

以来、防災協は地域交流室と積極的に会合を重ね、防災広報設備の設置を要望して、翌年の平成十年九月には、橋本公園内・石ヶ森一号公園内・大代北公園内の三箇所建設され、多賀城市に寄贈して十月から運用が開始されており、

それから五年後の平成十四年四月には「東北石油」が「新日本石油」に変わり、地域交流活動がいろいろ分野に広がり、「グラウンドゴルフ大会」を始め各種のイベントを通じて地域住

民との交流を進めるほか、各集会所に灯油の無償提供や夏祭り等への寄付など、地域のために広範囲にわたって協力されております。

この交流活動は製油所の安全操業に関わる事業であることを信じ、防災協としては大変ありがたく感謝しております。

さて、防災協は設立十年を迎えた節目に、梅雨の晴れ間だった六月二十日に、仙台製油所の見学会を開催しました。防災協のメンバー二十九名にご案内したところ、平日にもかかわらず二十六名の方々に参加していただき、出席率九十%はすばらしく、防災に対する意識の高さと、大代地区住民の代表であることの自覚の表れだと思えます。ご参加いただいた役員・委員の方々は心から敬意を表し感謝申し上げます。

見学会は、大代公民館に集合して、十時に製油所のバスで出発、製油所内の研修センターに到着後、挨拶と担当者の紹介等があり、早速パソコンに入力した資料をプロジェクトにより拡大画面で定期点検の状況と新規プロジェクト(発電装置と化学原料製造設備)の建設に伴う安全対策、また、新規プロジェクト完成後の操業に関わる安全対策や地震対策等々細部にわたってわかりやすく説明されました。この時間約一時間十分、参加者の皆さんが真剣に聞き入る様子は安全対策を確認する眼差しであり、大変心強く、頼もしく

も思いました。

も思いました。

研修センター内での説明終了後、屋外に出て製油所内をバスで巡り、定期点検の要所と新設機器設置に伴う安全対策について、現場を見ながら詳しく説明を受けました。

現場の見学を終えて、十二時頃研修センターに戻り、製油所で準備してくれた仕出し弁当で昼食会、この間に数件の質疑応答があつて、十二時四十五分頃製油所を出発、大代公民館に戻って見学会を終えました。

防災協は、製油所に対して安全対策を促し、大代地区住民の不安を無くすることが究極の目的です。住民の安全・安心のため、微力ながら努力する所存でございますので、今後共一層のご協力とご支援をお願いいたします。

### 女性教養講座『館外研修』

#### 一般募集のお知らせ

日時/平成十九年八月二十三日(木)  
場所/伊豆沼サンクチュアリセンター他  
募集人数/十五名  
対象/女性の方  
費用/二千元  
申込期限/八月十日(金)

申込方法/大代地区公民館に費用を添えて直接申込み(電話不可)

※女性教養講座の館外研修ですが、一般の方の募集も受け付けます。定員になり次第締め切りますのでお早めにお申し込みください(先着順)。

多賀城市消防団

第六分団だより

第六分団長 伊藤 勲

毎日うつとらしい日が続き、体調等崩しやすい季節であります。大代地区の皆様には、お変わりなく、お暮らしの事と思えます。日頃の消防団活動に対し、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

十九年度も四月十二日の桜田前分団長よりの事務引継ぎに始まり、早四ヶ月目に入り団員十八名一致協力し、定期活動、災害活動等、地域の安全、安心確保の一助になれる様努めております。これまでの主な団活動として、四月二十五日全体会、四月二十六日より、大代五区及び桜木東区の各区長様方に団幹部移動の報告と団員確保促進のお願い申し上げました。五月十九日、小野屋ホテルにおいて、歓迎会開催、五月二十四日からは、新団員、幹部団員規律訓練に始まり、ポンプ操法等を含め、六月十日の市演習に向け、午後七時より、午後九時までの二時間仕事の疲れをいとわず、訓練を積み重ねました。しかし、残念な事に、演習当日雨天のため、八幡小学校講堂内での式典行事のみになりました。ことに、ポンプ操法員五名の方々には、本番発揮の機会が無くなり大変残念になりましたが、訓練の成果を次年度に継いでいただきたいと思います。六月十二日、六・一二県民防災の日には、広報及び

無線交信訓練、六月二十六日、新日本製油所見学、七月一日機関員講習訓練に二名の参加、七月八日、九日の一泊二日に亘り岐阜県の世界遺産白川郷と郡上八幡、飛騨高山の小京都街並を団員十五名の参加の元を実施、日頃の労をねぎらい、団員同志親睦を深めて参りました。災害については、五月三日大代五丁目小火、五月十二日笠神三丁目火災、五月十六日七ヶ浜町松ヶ浜火災、六月十五日大代三丁目火災、六月十九日大代四丁目野火等の出動がありました。これからも、消防団の果たす役割を再認識し、団員一同活動して参りますので地域の皆様におかれましても、自然災害、人災問わず日頃の備えに万全を期していただきたいと思えます。安心、安全な街づくりのため、皆様のご指導、ご協力をお願い致します。

老人スポーツ大会に参加して

大代東 佐藤 洋子

第三十五回多賀城市老人スポーツ大会に参加、九時五十分各地区ごとに整列・会場には来賓の方々、参加者、選手、応援を含む人達が約八百名程集まり十時開会式が始まった。最初に開会宣言、市長と来賓の挨拶があり選手宣誓が行われ、各競技に入った。競技は午前と午後に分けて、八競技が行われ、来賓も一種目加わりました。競技している姿を見てみると、とても高齢者とは思えない元気な姿にびっくりしました。勿論、順位はないのですが、やは

り隣のチームが気になるのでしょうか。自分のチームはあと何人だから負けてはいられない、そんな気力がひしひしと感じられました。私も初めての参加で競技の内容は全然解らなかつたので、実は前日から心配でした。二つの競技に出させてもらいましたけど、何十年ぶりかで、ドキドキ感を味わいました。会場の中では、普段足腰が痛くていつてた人が目を疑う程の元気な歩き方をしてました。一瞬でもその痛みを忘れて頑張っておられたのだと思います。高齢者に配慮した競技だとは思いますが自分から参加することで一日楽しく運動したという満足感を味わいながら帰宅の途につきました。参加した人達は、来年も元気で参加しようねと誓い合っている人も大勢見受けられました。高齢化社会に暗いニュースばかりでなく元気していると楽しい事もあるのだという事を私は最後につけ加えたいと思います。

ふれあい俳句

大代五丁目 作山 はるえ

風かほる力作そろふ墨のあと  
うつば草花にほのかに甘みあり  
早苗手に子等はソロリと田に入る  
今も咲くこれがまま子の尻ぬぐい  
青田では夜は蛙の演奏会

大代西 松浦 富男

釜神の煤けるまま走り梅雨  
何もせずばうふら魅入る米寿かな

漏刻は時の記念日本はしる  
笠をつけ耳出したる田掻馬  
袋掛けせしは童のころなりし  
母の日や父母参観日幼稚園  
サングラス取れば柔和な好々爺  
短夜やローソク灯に民話聴く  
病みあがり瘦腕出してクールビズ  
天と地の間黄に染めキスゲかな

笠神西 本郷 勝子

笠神西 吉野 珠子

夏霧や出船入船疎ましき  
暁起きや三角山に夏の月  
古里や山河真みどり懐かしむ  
時忘れまどろむ海辺みどり風  
真夜中に不気味鳴は不如帰  
小休止怒濤の如く蝉がなく  
筋書の無いドラマそれは夏の山  
夏登山生命力が漲って  
蒼嶺続くめざしてめざす頂上へ  
果てし無き荘厳なるや雲海は

塩釜の海風なぶりに衣更え  
水菓子や相馬へ毎年墓参り  
目の中に昔がありぬ山吹の花  
信号の無き道急ぐ青田風  
万緑や生き生きした人ばかりかな  
梅雨青田白鷺二三羽ずぶぬれて  
松島湾おだやかな海とあざみかな  
樹下闇赤く可愛い蛇莓  
遊歩道メルヘンチック夏きのこ  
雨あがりびわの実色づき母想う